

Let's
TRY!

土壌改良資材 トリコデソイル®

現 地 レ ポ ー ト



驚きの
根量差！

	主根数	茎径	根長
施用区	15本	18.5mm	80cm以上
無施用区	6本	12.0mm	約60cm

おすすめの使用方法

① 苗への灌注

育苗前半での
ご使用が
おすすめ!!

根張り向上により、栄養吸収効率が良くなります。それにより、健苗育成や定植後の健全な生育への基盤となる体づくり、品質の向上が見込めます。

【こんな作物に】

- 果菜類 (トマト・キュウリ・ピーマンなど)
- アスパラガス
- 葉菜類 (キャベツ・ネギ・ニラなど)
- タマネギ
- 花き

② 土壌消毒後の本圃への灌注

土壌病害でお悩みの方に。病原菌が蔓延する前に施用することで善玉菌の占有面積が増えるので、土壌病害の軽減が期待できます。

本商品についてのお問い合わせ先

株式会社サングリン太陽園 技術普及室

TEL 011-892-6281

試験概要

- 試験場所 伊達市
- 試験作物 キュウリ
- 散布量 50g/1000株
- 処理時期 育苗初期 (2017年5月上旬)
- 調査日 2017年10月6日

生産者さんに
聞きました！



低温にも負けずに成長してくれました

育苗段階では、効果がわかりませんでした。本圃に出してから生育の勢いは良かったです。定植後、低温にあたってしまい、無施用区は生育の勢いが落ちました。しかし、施用区は、勢いが衰えることはありませんでした。今年も使用する予定です。

サングリン 技術普及室より一言

トリコデソイル施用区は、根が深く広がっているのがわかりました。それは育苗期の処理により、**根量の多い健苗が育成された**ためと考えられます。定植後に強い直根を出し、活着がスムーズに進んだことでキュウリの生育が旺盛になりました。

根が多いと貯蔵養分も多くなります。そのため、低温、養分不足、水不足などといった**環境ストレスにも強くなります**。

あなたの代わりに
トライアル！

展示圃優良事例紹介

「〇〇〇〇」を、使ったら。

サングリングループの展示圃では、さまざまな作物に対し、薬剤や技術の検証を行っています。
今回は土壌改良資材「トリコデソイル」のご紹介と検証結果をお伝えします。

使用した製品

1gに10億個もの頼もしい味方

トリコデソイル®

アリスタ ライフサイエンス



「トリコデソイル」は優れた根圏環境をもたらす「トリコデルマハルジアナム T-22株」が主成分で、ICM（総合的作物管理体制）に適した土壌改良資材です。

育苗期の処理により新根の発生と伸長を活性化し、豊かな根圏を形成することで、栄養の吸収力を高め、健全な植物体を保ちます。有用微生物であるトリコデルマ菌は、フザリウム、ビシウムなどの悪玉菌よりも速いスピードで繁殖を続けるため、善玉菌優先の根圏環境へと整えていきます。

生育ステージを選ばず、水に薄めて灌注するだけ！ 健全な土づくりを応援します。

● 主な対象作物と施用基準量

目安として水で500～2000倍に希釈して施用してください

栽培場面	栽培方法	作物名	トリコデソイルの必要量	希釈水量*	使用時期	使用頻度	施用方法
育苗	セル型トレイ・ペーパーポット (約30×60cm)	野菜類 花き類	1g/トレイ	500mL/トレイ	育苗初期	1回	じょうろ等で灌注
	ポット育苗		25～50g/1000株	50～100L/1000株			
本圃	土耕栽培	野菜類 果樹類 茶 花き類	125～250g/10a	500～1000L/10a	定植時	1回	植溝灌注
					定植後***	1回	じょうろ、散布機、灌水チューブ**で灌注
	ロックウール／ココピート培土 (養液栽培)	野菜類 花き類	125g/10a	250～500L/10a	定植時	1回	灌注または灌水チューブ**を使用
					定植後	毎月施用	

* 希釈水量は目安であり、作物や土壌の状態により適宜変更しても差し支えありません。

** 養液栽培でサンドフィルターが設置されている場合はトリコデルマ菌が吸着されてしまう可能性があるため、サンドフィルターと圃場との間に液肥混入装置を設置してトリコデソイル希釈液を混入してください。

*** 果樹類や多年生の野菜類は、周年施用できます。

®はアリスタ ライフサイエンス株式会社の登録商標です。

根の表面を覆うように増殖した
トリコデルマ菌が根回りをガード！

